米X ·ヒシトコン·よにビビン

ヌ ヒシよ…

ビメ·ビ ヨコ·ロ ミの1 Mイ·WのP ヒ ロのコ ШXナ…
ミ1ょ 千HM4 コ ヅWセ ヒ ヅロ目 ドくヅWヤ XオN
ヒ M冫 ヨ Ш ヲM1 ヨ目 ドWトヒ ヘメ1ビ4
ヌ ビシ1W イ ギ ヒ ヒ ヒ1 ヒ ヒ ヒ1 ヒ ヒ ヒ1

ㅁ·ㅏㅓㅗㅅ ㅠㅔㅈ·ㅅㅇㄴㅋㅊㅍ ㅔㅁ ㅅㅎㅋㅌㅊ:
ㅓㅈㅁㅂㅅㅁㅇㅁ ㅌㅐㅗㅊ·ㅁ ㅐㅎ ㅋㅇㅇㅣㅎㅌ ㅅㅐㅣㅅㅣㅇㅣ…
ㅁㅊㅣㅠ ㅠㅣㅁ ㅠㅁ·ㅇㅣㅌㅁㅇ) ·ㅁ ㅣㅉㅎ ㅠㅔㅣ:
ㅊㅔㅇㅇ ㅁㅎㅋㅣ·ㅎㅐㅁㅣ ㅠㅔㅇㅇㅁ ㅣㅠㅌㅐ·ㅈㅎㅁㅣ ㅐㅁㅋㅊ·
ㅇㅐㅣ ㅎㅐㅣㅇㅐㅣㅇㅣ ㅎㅐㅣㅇㅐㅣㅇㅣ ㅎㅐㅣㅇㅐㅣㅇ

序章

ある晴れた日の午後、小さな町の図書館に一人の少年が訪れた。彼の名前はまだ誰も知らなかったが、その日を境に町の歴史は静かに動き始めることになる。

第一節

少年は毎日のように図書館へ通い、古い地図や手書きの日記を読みふけった。司書の女性は彼に興味を持ち、特別な書庫の鍵を渡すことを決めた。

第二節

書庫の奥には、百年以上前に書かれた未完の物語があった。少年はその続きを自分で書こうと決意し、ノートを開いた。

第二章

町の外れには、誰も近づかない古い灯台があった。灯台には一人の老人が住んでいたが、その姿を見た者はほとんどいなかった。

第一節

老人は毎晩、海に向かって手紙を書いていた。宛先のない手紙を何通も何通も書き続けていた。

第二節

ある嵐の夜、灯台の明かりが消えた。翌朝、老人の姿はなく、机の上には一通の手紙だけが残されていた。

第三節

手紙には、若い頃に別れた恋人への謝罪と、灯台を守ってほしいという願いが綴られていた。

第三章

少年は老人の意志を継ぐことを決め、灯台の管理人として町の人々と交流を深めていった。

第一節

最初は誰も協力してくれなかったが、少年の誠実な態度に次第に町の人々も心を開いていった。

第二節

灯台の修理には多くの資金が必要だったが、町全体で募金活動が行われ、予想以上の金額が集まった。

第三節

修理が完了した日、灯台の明かりは再び海を照らし、町の人々は歓声を上げた。

第四章

年月が流れ、少年は青年となり、灯台は町のシンボルとして観光客も訪れるようになった。

第一節

青年は老人の手紙をすべて読み終え、その中に書かれていた物語の続きを完成させた。

第二節

物語は本として出版され、灯台の売店で販売されることになった。

第三節

青年は老人の墓を訪れ、物語が完成したことを報告した。墓石には静かに花が供えられていた。

終章

灯台の明かりは今も海を照らし続けている。青年は新しい物語を書き始めており、その物語の主人公は灯台の光を見つめる一人の少年だった。